

—出エジプト17章・8-13、2ティモテ3章・14~4-2、ルカ18章・1-8—

〔そのとき、〕イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならないことを教えるために、弟子たちにたとえを話された。「ある町に、神を畏れず人を人とも思わない裁判官がいた。ところが、その町に一人のやもめがいて、裁判官のところに来ては、『相手を裁いて、わたしを守ってください』と言っていた。裁判官は、しばらくの間は取り合おうとしなかった。しかし、その後に考えた。『自分は神など畏れないし、人を人とも思わない。しかし、あのやもめは、うるさくてかなわないから、彼女のために裁判をしてやろう。さもないと、ひっきりなしにやって来て、わたしをさんざんな目に遭わすにちがいない。』」それから、主は言われた。「この不正な裁判官の言いぐさを聞きなさい。まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか。言っておくが、神は速やかに裁いてくださる。しかし、人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか。」 —ルカ18章—

選ばれた人になるように

聖書の中で度々主は、癒された者に向かって「あなたの信仰があなたを救った」と語っておられます。

主は、弱く神の助けをひたすら待ち望む人を「選ばれた人たち」と呼んで、速やかにその人たちに向かわれるのです。

神がわたしたちに求めておられる信仰とは、**神を尊び、そのみ心に従う**ことに他なりません。神が人類を創造された理由は、わたしたちに「救いに至る幸い」を与え

るためであり、その救いは、私の望みが叶う事ではなく、私において究極的に神のみ心が実現することだからです。

今日の福音は、この救いを得るために、気を落とさず、祈らなければならぬことを教えるための主が語られた譬えですが、悲しいことに、現代人に祈りは、廃れた習慣、空しい迷信、無知蒙昧の名残と見なされてしまっているようです。原因

は、聖なるものの消滅、それに不毛な祈り（利己主義、高慢、偽善、効果のゆっくりさ）故でしょう。

「不毛な祈り」について、使徒ヤコブは語っています。

「あなたがたは欲しても得られず、人を殺します。又、熱望しても手に入れることが出来ず、争ったり、戦ったりします。得られないのは、願ひ求めないからで、願ひ求めても与えられないのは、自分の楽しみのために使おうと間違った動機で願ひ求めるからです。神に背いた者たち、世の友となることが神の敵となることだと知らないのか、世の友になりたいと願う人は誰でも神の敵になるのです」(ヤコブ4. 2~4)と。

一方、Iヨハネは、実りをもたらず信仰の祈りを示します。「**何事でも、神のみ心に適うことを私たちが願うなら、神は聞きいれてくださる。**」

私たちは、願ひ事は何でも

聞きいれてくださるということが分かるなら、神に願ったことは既に叶えられていることが分かります」(Iヨハネ5. 14~15)と。

神の救いは「選ばれた人たち」すなわち、ヤコブの論を心得て、ヨハネが指摘しているような「**神を尊び、そのみ心に従う信仰の人**」に向けられていることを忘れてはなりません。速やかに裁いてくださるために、信仰の人を求めてやって来られる「その日」、主が、地上で私たちの間にその信仰を見出せないで終わることがありませんように。

速やかに主が来られるその前に、私たちに求められているのは、選ばれた人になるために「救われる信仰」への速やかな回心です。

2022年10月16日

主任司祭 昌川信雄